

もも・ネクタリン特報 号外



JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

1. 防寒・凍害対策 **若木（7年生程度まで）は、必ず防寒対策（ワラ巻き）を実施しましょう**

①ワラ巻き・・・ 巻く範囲は、地際部から地上80cm程度までの樹幹部。**厚さは5cm以上**で巻く

◎ワラ被覆時期：11月下旬～12月上旬 ワラ除去：3月下旬～4月

②塗布剤(フジホワイト)・・・地際部から地上80cm程度までの主幹部にハケ等で塗布する。

◎塗布時期：根雪前(乾きやすい天気の良い日に塗布する)

樹幹部に塗布剤を塗布し、さらにワラ巻きを行なうと効果的です。

③冬季せん定・・・ **凍害が心配される場合は、厳寒期(1～2月)に実施せず、3月に実施する。(特に7年生までの若木)**

2. 雪害防止

積雪により枝折れ等が心配される園地では、あらかじめ添え支柱などを行ない、主幹・主枝を補強しておく。

3. 野鼠対策

- 1) 根元の草はきれいに取り除く。また、園の周囲も除草する。
- 2) 密度を減らす。パチンコ、一斉駆除やヤソジオン、ラテミンリン化亜鉛などにて複合的に。

4. 苗木の植付け方法とポイント **※12時間（1晩）程度、根部を水に浸し十分に吸収させてから定植する**

① 植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、直径80～100cm、深さ50cm位掘り、土とユーキリン(100g)、もみがらくん炭(スcoop1杯程度)、エアポイント(1/2袋)を混ぜて埋め戻す。

* ユーキリン(20kg入り)、もみがらくん炭(100ℓ入り)、エアポイント(18kg入り)

* 化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する。

* **すぐに定植できない場合は、吸水させてから仮植しておく。**

② 植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。土をかけた後、苗木を軽く持ち上げるようにしながら足で軽く踏みつけて、たっぷりかん水を行なう。

③ 植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

④ 苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。

⑤ 苗木の剪定(切り戻し)は、春季(3月下旬～4月上旬)に行ない、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。

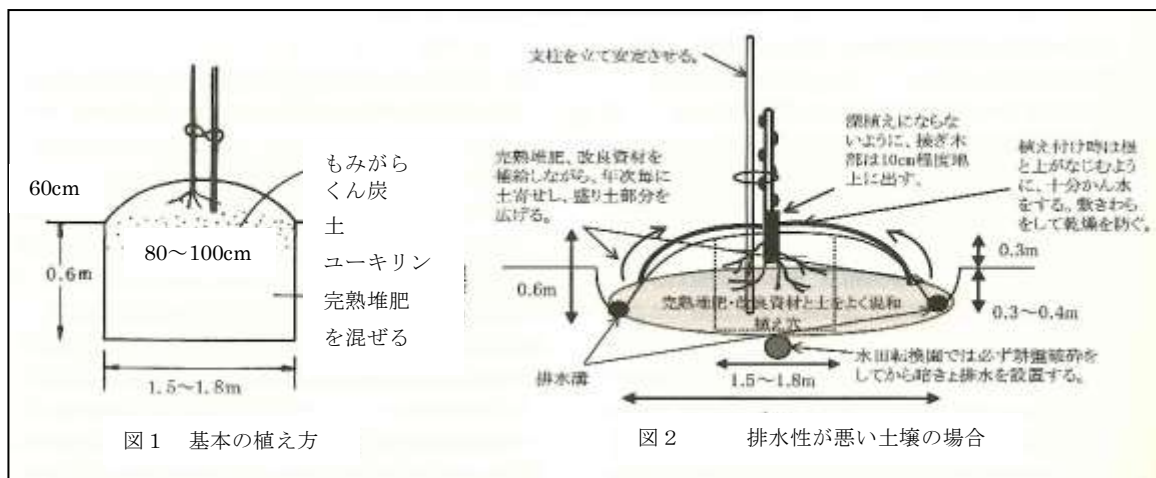


図1 基本の植え方

図2 排水性が悪い土壌の場合

秋植えの場合 近年、凍害による若木の枯死が散見されます。秋植えを行う場合は、十分な対策を行って下さい。

- ① **越冬対策（ワラ巻き等）は必ず実施する。**
- ② 秋植えを行なう場合は、土壌と根の活着が良く春季の生育が良好となるが、凍害・雪害等の心配があるため、定植後は必ず防寒対策・冬囲い（ワラ巻き**厚さ5cm以上**等）を実施する。

春植えの場合

- ① **春植えの場合は、伏せ込みを行なう。**
- ② 束ねてある苗木は必ずバラして、根部を土中の凍結部以下になるようにして伏せ、苗木の下部70cm位を土中に埋める。
- ③ 乾燥防止のため、細根部分は隙間がないよう丁寧に土をかぶせる。
- ④ 春植えの場合は特に土壌が乾燥しやすいので、雪が消えたら土壌が乾燥しないよう、植え穴に水をたっぷり入れて植付ける。